



社会科を学ぶ意義とは?」

今回は「社会科を学ぶ意義」について書かせていただきます。もう既に中3社会の授業は始まっていますが、本来ならば、このテーマから話して授業するべきだと思っております。

結論から話すと、私は「**訳(理由)を知る**」ことにあると考えています。おわかりのように、社会科の各科目は、全て人間の営みを学ぶ形になっています。歴史は、過去の人達の行動してきた足跡ですし、公民は、現在(過去も含む)の世の中の仕組みを学ぶものです。当然その仕組みは、人間が歴史の中で作ってきたものとなる訳です。地理というと、地形とか気候とかを連想する方も多いかもしれませんが、教科目としては人間が各地で生活する営みを学ぶものになっています。地球のような地球の構造や成り立ちを学ぶのではなく、あくまでも人間生活に根ざした地形の意味とか気候の特色を学ぶのが地理の役割です。

このように、社会科の各科目が全て人間の営みを語ったものであるからには、それ相応の「理由」があります。

一つ例をあげましょう。平安時代になると公地公民制は完全に崩壊に向かいます。理由は簡単で、住民が重い税に耐えきれず、様々な手段で対抗するからです。その手段の一つに偽籍というものがあります。男性なのに戸籍には女性として登録するので。今のようにパソコンもなく、写真もありません。やりたい放題だったのです。では、何故そんなことをしたのか?理由は簡単です。女性

が納める税は租、つまり米だけで、それも非常に軽微なものでした。江戸時代のように重い年貢で苦しむことはありません。一方男性は重税に苦しみます。兵役といつて、兵士として各地の守りに行くのも税の一つでしたが、それはそれは過酷なものでした。防人(さきもり)は、九州の大宰府で三年間兵士をつとめますが、その間給料は出ません。武器食糧など自分で用意します。考えてみてください。三年間父親が無収入、しかも三年分の費用を家から持ち出す。一人防人になれば一家は滅びるといわれたものです。また庸調という言葉

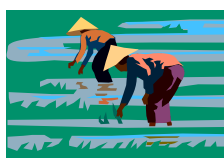
をきいたことがあると思います。これも男性のみに課される税で、中央(平安京)まで、運ばなければなりません。地域の代表が運ぶのですが、帰り道に食糧がつきて、死んでしまうほどつらいものでした。

こんな状況の中で、「自分は男です」と登録するのはバカです。偽籍が行われたということ。村の中で男性が数人しかいない戸籍も残されています。

公地公民制は、住民を戸籍計帳に登録し、口分田を貸し与え、税をとりたてていくシステムでしたが、その台帳が偽りですから、税収は大きく減少していきます。国家財政の危機。

そこで、朝廷は公地公民制をあきらめ、新しい税のシステムを目指して改革をしていくのです。この続きは、またの機会にまわしましょう。

長い説明で申し訳ありません。つまり、人間には思惑や目的があるのですから、社会を変えようとしたり、しくみを作ろうとしたりすることに全部理由がありますし、地域の気候に合わせて暮らすために様々な工夫をするにとにも、全て理由があるのです。



ところが、大抵の生徒達は、それを単に「意味不明なまま暗記」してしまいます。ある程度は暗記が必要でしょうが、理由のあるものには、その経緯に即した「流れ」が必ずあるものですから、断片的に暗記しても、対応は出来なくなってしまうばかりです。私が受験の頃、「いくやまいまい、おやかさかき、かやおてはたか、やかかわたはわい」という呪文のような文言が流行りました。これは、伊藤博文から犬養毅までの歴代首相の順番を頭文字で表したものです。流れを頭に入れて、それから事件や人物を足していかなければ、人間の行動には理由やねらいがある限り、訳がわからなくなってしまう。大きな流れや意義がわかっていけば、後は派生的にそれを広げて深めていくだけです。1543年に鉄砲が伝来し、1600年に関ヶ原の戦いがあり、1615年に元和偃武となったことがわかれば、それを中心に信長・秀吉・家康の行動を重ねて、広げていく程度感覚が身に付き、理解しやすくなること

でしょう。創学舎では、社会科の先生方には、大きな時代の流れや、その日教えるトピック全体の意義を、しっかりと俯瞰して指導してくださる様、お願いしています。単に教科書を読みながら、それを解説するだけでは、断片的には理解出来ても、訳がわかるようにはならないからです。

よく生徒達には申し上げるのですが、「ものしり」を目指すよりも、**これからの時代は「わけしり(訳がわかってる人)」が大切にされるに決まっています**、と私は考えています。社会が変動し、今まで理由も無くやっていたことを猿真似で繰り返しても、状況が違うのでうまく行かないことばかりが発生するようになってきました。言われたことを単にやることも大切かもしれませんが、

その理由や訳をわかっていたら、社会の中で応用が利いたり、臨機応変な行動や判断が出来たりするはず。社会科は暗記科目で嫌だとか、社会科にはドラマがあるから好きだという考え方も良いのですが、創学舎では、社会科を学ぶというよりも、いつか社会に出る日のために、あれこれを「訳がわかりつつ理解して、他人にしっかりとした理由を説明できる」力を持つための教科として考えていただくことが重要だと考えています。これから一緒に社会科を学んでいきましょう!

感謝の気持ち

(瀬野)

●4月になり、新年度がスタートしました。皆さんの中には、「新たな学年が始まったから心を入れ替えて頑張ろう!」と決意をしている人も多いのではないのでしょうか。

●しかし、日々の生活を送っているうちに、当初の決意も薄れてしまい、気が付いたら今までと変わっていない、ということもあると思います。

●皆さんは「水は答えを知っている」という本を知っていますか。水に「ありがとう」という「よい言葉」をかける綺麗な結晶を作り、逆に「ばかやろう」という「悪い言葉」をかけると醜い結晶を作ると書いてあります。人が言葉を発すると、それを最初に受け取るのは自分自身です。よい言葉であれ悪い言葉であれ、自分の発した言葉は、耳に聞こえ、そして全身に響き渡ります。人間の体の70%は水です。ですから、水の結晶と同じく、言葉のエネルギーが私たちの体に刻まれているのです。

●「ムカツク」という言葉も悪い言葉です。私自身、中高生のときは、自分の親に対して悪い言葉を発していました。今は私も子供の親になったの

で、自分の子供に悪い言葉をかけられたら非常に悲しい気持ちになります。しかし、当時の私にはそのような気持ちが理解できるはずもなく、親の言うことを無視したり、悪い言葉で返していました。でもそれは、自分自身の体にも悪い影響を与えていたのですね。

●さて、新年度の決意の話に戻ります。「宿題を忘れずに提出しよう」「毎日勉強しよう」などと様々な決意をしていると思います。そこにもう一つ「感謝の言葉をかけよう」を加えてください。私たちは一人では生きていきません。子供のころは無条件に親に愛されて日々生活をしています。そして、中学生になると親に加えて周りの友人たちにも支えられています。大人になっても一人では仕事はできません。このように周囲の人がいてこそ私たちは生きていけるのです。ですから、周囲の人たちに感謝の気持ちを言葉で表しましょう。

●立派なことを書きましたが、私自身この年齢になっても親に感謝の言葉をかけられていません。お互いに足るを知り、感謝の言葉をかけるように心がけて、心豊かな生活を送っていきましょう。

(上條)

「わからない!」

暖かい日が続いていて、もうすっかり春ですね!皆さん、新生活にはもう慣れましたか?進学・進級して生活スタイルにも変化があったかと思えます。それでも変わらず、勉強は続きますから、頑張ってくださいませようね。

とはいっても、「勉強、わかる」ところははかどるんだけどなあ」「わからないところはつい後回しにしちやって宿題も終わらなそう……」という人もいるかもしれませんね。疑問点がでてくる

は勉強をしようとしている証拠ですから、すごく自然なことだと思います。

ところで、皆さんは勉強していて、わからないところがあつたときどうしていますか?教科書やテキストなどで調べ直して考えてみたり、とりあえず質問をしたりといういろいろなアプローチがありますね。

ここで、私の体験談です。中学生の頃は、わからなかったら、即!質問していました。それで特に困ったこともなかったのですが、高校に入ってから変化が起きました。質問をしに行ったときに教科書に書いてあることをよく確かめずに聞きに行く。「調べてから聞きに来なさい。」と諭されました。それからはわからないところがあつたら、必ず教科書やノートを見て、それでもわからなければ質問に行く、というようになりました。それでしばらくは問題なかったのですが……。



高校3年生の春に、化学の勉強をしていたことです。なかなか正しい答えが出ない計算の問題がありました。計算ミスをしているからなのか、そもそも式の立て方からして間違っているのか、そうだとしたらどの知識が足りていないのか……。自分では解けない原因が分析しきれず、先生のところへ質問に行きました。しかし、自分でも「どこがわからないのか、わからない」状態なので、質問自体がうまくできません。「とりあえずわからない」という感じです。そこで先生からの一言。「わからないところをはっきりさせてから、質問に来い。」と。

そのときは「はい。」と返事をして立ち去りましたが、心の中では「わからないところがわかつたら苦労しないよー!」と思ったこと、今でも覚えて

えています。

これには続きがありました。勉強に行き詰ったとき、決意して「わからないところをはっきりさせる」まで粘ってみたのです。そうすると、もやがはれたように理解が進み、化学に限らず、他の教科でも成果が上がるようになりました。先生のおっしゃったことはこういうことだったのかと実感しました。



ここで、皆さんにお伝えしたいのは、「わからないことがあつてもくじけないでほしい」ということです。勉強を通して新しい知識を身に付けるのは大変なことですし、わからないことを解決していくのも本当に大変です。わからないことを人に聞くのも勇気がいることですね。でも、みんなそう思っているということを忘れないでほしいなと思います。「まあ、みんな同じなら……。」くらいの気持ちで、わからないところに立ち向かってくださいね!

(船木)

高校入試の日の出来事

●もう随分昔のこと。中三の三月某日。私の公立高校入試の日だった。その高校を受験するのは、同じ中学から8名。引率の先生から校庭で事前の注意をうけているところへ、一人の男性が歩み寄ってきた。

●「きみ達は大川中学の生徒だね。先生はきみ達の先輩だ。今日は頑張りなさい。一つだけアドバイスしておく。いいか、英語は全て訳せ。訳して解くんぞ。」

●ガン。衝撃が走った。これまでの自分の模試は英語だけ不振で、最高点57点。いつも時間が足りず苦しんでいたのだ。それなのに訳していた

ら、もつと時間をくってしまふ。

●「すみません。いつも時間が足りません。訳すのは無理です。それでもやるんですか?」と私は質問した。

●「きみは英語の教科書はきちんと訳せるかね?」「それは大丈夫です。」「音読もできるかい?」「自信あります。」「だったら大丈夫。全部訳してみなさい。時間は余るし、点も上がるよ。」「信じていいですか?大丈夫ですか?」「大丈夫。信じなさい。」「ニッコリ笑ってその先生は去って行った。(後でわかったが、それが松永先生という方で、私の遠縁にあたる人だった。)

●私の家は、母子家庭で生活保護をうけている状況。公立に行くしかない。そのために何としても合格しなければならぬ。重圧感とはとても大きく、大きかった。悩んだ末、「訳せ」を信じてみた……。

●奇跡がおきた。すいすい解けるのだ。時間も十分以上余り、結果満点。他の科目も会心の出来で、合格を手にした。

●何故この話を書いたか。生徒の中に私と同じ状況の人がたくさんいるからだ。訳さないまま字だけを見ている。自分では考えているつもりで実は迷っているだけ。考えるには、まず意味をつかまないといけない。意味をつかむには訳さないといけない。この単純なことが昔

の私と同じで、分っていない生徒が多い。勿論、訳すには訳す力をつけることは必要。それはまた授業の中で触れることにして、訳すところから思考がはじまるのだということとだけは理解してほしい。

(小林)

▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡ください。